

今後のやまきたのつどいの方向性について

山城北圏域地域リハビリテーション支援センター

京都岡本記念病院 田後 裕之

平素は山城北圏域リハビリテーション支援センター事業に、ご理解ご協力賜りありがとうございます。

支援センター事業のひとつとして開催している介護施設従事者連絡会（通称：やまきたのつどい）は、「相互理解」を基盤に「垣根のない顔の見える関係づくり」「共通言語・共通指標」を深めていくことで、地域包括ケアシステムの構築にむけた「機能的ネットワーク」を推進し、ゆくゆくは地域住民の生活・充実につなげていくことを目的としています。

これまでに6回開催してきましたが「有意義な集まりである」「業務に還元できた」という声と同時に、回数を重ねるにつれ、「魅力のあるよりよいつどいにしていくためには…」といった「今後の方向性」についてのご意見もいただきました。

今回、いただいたご意見やこれまでのつどいの内容を踏まえ、事務局内で検討を繰り返しました。

正直、事務局内でも様々な思いや意見がありました。

その上で、今後のつどいの基本方針を以下のように致しました。

<ありたい姿>

- ・様々な職種が気兼ねなく意見が言い合え、現実の業務として必要なことを深めていける場
- ・個々の業務につなげるための企画を実現する自由な（地元）地域のつどいの場

<活動方針>

- ・多職種間の「相互理解」「顔の見える関係づくり」「共通言語・共通指標」を深める場とする
- ・顔合わせの集まりだけでなく、時に目的・テーマ・対象を絞り、より掘り下げた内容で開催する
- ・内容は、基本的にGW 中心とするが、その時により、検討し選択する
- ・全体の集まりとしての開催頻度は、3～4ヶ月に一回、平日夜の開催を基本とする。

（その間に、分科会的に開催することもある）

回数を重ねていく中で、皆様からたくさんの意見をいただきました。

事務局として、やまきたのつどいは「一方的で画一的な場」とは考えておりません。

皆様と一緒に、やまきたのつどいで勉強し、地域を盛り上げていくことができると考えております。

最後に事務局よりお願いしたいことがあります。

単なる顔合わせだけに終わらない、具体的な次の一步へのヒントが得られるつどいとなるよう、一緒につどいを育ててください。様々な企画の提案、大歓迎です。事務局への参画も大歓迎です。ご理解・ご協力の程、よろしくお願い致します。